

【身近なワンヘルスの取組】

私たちのグループでは、「ワンヘルヒンを食べよう」というテーマの取組を、県民全体で取り組む身近なワンヘルスの実践として提案します。これは、現在すでに農産物など500品目以上が登録されている福岡県のワンヘルス認証商品を進んで食べたり、生産者が自らの商品をワンヘルス認証商品として申請する動きを活発にしたりする取組です。

私は、里山の保全や、人と野生生物の平和的共存に関心があり、ワンヘルスの視点から人・動物・環境のつながりについて学んできました。その中で、ワンヘルス認証商品の消費は、専門的な知識がなくても、日々の「食」の選択を通じて誰でも簡単に実践できるため、県民全体で取り組みやすいという点に魅力を感じました。生産者や地域環境を支えながら、自分自身の健康にもつながる身近なワンヘルスの実践として、このテーマに関心を持ちました。

【県民への伝え方】

この取組を県民に伝えるために、減農薬・省エネなどの基準を満たすワンヘルス認証商品を消費することが、からだにやさしく、動物にも環境にもやさしいワンヘルスに繋がるということを分かりやすく示します。具体的には、たとえばスーパーの売り場で「日常の食卓に、ワンヘルスな一品を。」などのキャッチフレーズを用いたポップを掲示することを提案します。これにより、誰にとっても身近な「食」の観点からワンヘルスを知ってもらい、日常の行動に繋げてもらうことを目指します。そして、ワンヘルス認証商品の消費が、自分自身の健康や動物たちの健康を守るだけでなく、持続可能な農林水産業を支え、未来の「食」につなげる投資でもあることを伝えていきます。

【期待される効果】

この取組によって期待される効果として、たとえば農薬や化学肥料などの使用を抑えて生産された農作物を選ぶことで、人の健康への悪影響を減らすことにつながります。また、ジビエの活用などを通じて野生動物の生態系バランスの維持や農作物の鳥獣被害の軽減にもつながります。さらに、地産地消を進めることで農産物の輸送距離を縮めることができ、CO₂削減にもつながります。

このように、私たちはワンヘルスを難しい概念として県民に伝えるのではなく、普段の買い物の中での小さな選択によって、誰でも簡単にワンヘルスに貢献できることを伝えたいと考えています。そうした身近な実践を通じて、ワンヘルスをより自分ごととして感じてもらい、県民一人一人の選択が、より良い地域の未来と持続可能な「食」を支える力になることをPRしていきます。